

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401540		
法人名	有限会社 北邦		
事業所名	グループホームさらさの杜(ユニット1 おおる)		
所在地	函館市安浦町364番地2		
自己評価作成日	平成 29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0171401540-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成29年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の施設内清掃と利用者とのコミュニケーションボランティア、行事時にはボランティアによる踊り披露、地域お祭りには施設まで行列にきて頂き利用者のご祝儀を奉納する、高校生のお祭りパレードの施設前での披露、小・中・高校生の高齢者とのふれあいや職場体験・ワークキャンプ、町内会ではお正月餅つきボランティア、避難訓練の協力、町の文化祭には作品の出展などを積極的に行い地域との繋がりを大切にしている。特に農園で取れたハーロウィンカボチャなどの展示には苗を植える段階から一生懸命に手入れしている。山菜の収穫時期や魚介類の差し入れがあった際には利用者の方々の智恵を活かしながら調理している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、山や海に囲まれた自然豊かな旧南茅部町安浦に位置し、旧川汲町に隣接した静かな地域に立地している。コミュニケーションボランティアなどのボランティア団体から数々の支援を受けるとともに交流している。小・中学校や高等学校の総合学習や体験学習など認知症介護の資格と経験等を活かした情報発信の場ともなっている。災害対策では、事業所からの通報により、消防署から防災無線放送が全町内に流れるシステムを活用して、消防団や地域住民が速やかに駆け付ける体制を確立している。住民から差し入れのあった山菜や魚介類の調理に、経験豊かな利用者が係わり、昔馴染みの具材や味付けなどで食事を楽しんでいる。地区の文化祭にはハーロウィン南瓜などの作品を出品し、地域住民との交流を深めている。事業所の長い廊下を利用したり、リハビリ機具を活用し、レクリエーションも取入れ静から動へ転換を図り、利用者の体力向上と残存能力の活性化を促進して、介護度の軽減に繋げるなど、地域の協力を得て質の高い支援に積極的に取り組む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、全ての職員が把握できるよう施設内に掲示して把握し実践につなげている。	事業所設立時に職員と作成した5項目の理念を、玄関等に掲示し、ユニット会議等で理念を共有しケアに繋げている。利用者との係わりで躊躇する時には理念に立ち戻り、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の行事、又町内の文化祭に参加、地域学生と交流し、ボランティアの訪問など受け入れし地域との繋がりを大切にしている。	地域の社会福祉協議会と連携して、積極的に19のボランティア団体を事業所内外の清掃などに受け入れている。また、中学校・高等学校生徒の職場体験学習を実施し、認知症介護の楽しさと厳しさを伝え、認知症の理解と地域との繋がりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議や毎月のボランティア訪問時に認知症について説明している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し日常生活や施設行事などの報告と地域の方々との意見交換をしてサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、2ヶ所の町会、家族などが参加して、利用者の状況や行事報告などを行い、参加者からその時期に即した意見や助言を得てサービス向上に活かしている。議事録に写真を添え、家族に送付している。	運営推進会議は、家族、地域の人たちが運営を見守ったり、協力者として助言するなど運営上重要な意味・役割を果たす会議として位置づけられていることから、事業所の行事に合わせて開催するなど、家族等が参加しやすい環境を整備して、意見や要望をより反映できる会議となるよう期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支所福祉課や社会福祉協議会へは随時訪問し施設の状況等を報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政とは、支所を中心に随時訪問し、利用者や家族に関する相談や、最近多発している土砂災害に対する対策などで、意見交換して指導、助言、情報を得ている。また、電話等で事業所の報告を行い、連携を図り、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、定期的に研修会で学び身体拘束のない支援に努めている。(20時以降は防犯の為玄関は施錠している)。	身体拘束廃止委員会や毎月の内部研修会で、身体拘束の具体的状況と言葉の抑制について学び身体拘束をしないケアに努めている。言葉の抑制等があった場合には、ユニット長や主任に報告し、全職員に説明を行うことで全員で情報を共有している。玄関は、防犯上夜勤時間帯のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で虐待防止委員会のマニュアルに基づいて勉強し、虐待の無い支援を全スタッフが意識している。			

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度については、施設内研修会で勉強し理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前面接時に契約に関する説明を十分行い、入所時に再度説明をし、不安や疑問等の無い契約書を作成している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族にも運営推進会議へ参加して頂き、意見交換の場を設けて要望を聞き運営に反映させている。	日々の会話などから利用者の意見・要望の把握に努め、家族とは、運営推進会議参加時、来訪時に意見・要望を聞いて運営に反映させている。また、電話での意見・要望は、申し送りノートに必ず記載し、見た職員がサインして共有し、介護への反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務会議・職員会議・ユニット会議を開いて意見を聞く機会を設けて運営に反映させている。	職員会議等で要望や意見・提案を話し合い、運営に反映させている。アンケート調査を行って、待遇改善も出来ることから実施している。施設長は、日常業務の中で職員の話をよく聞き、特に資格取得には積極的に、勤務を変更するなど、職員のスキルアップに応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力や実績を把握し個々が働きがいや向上心・スキルアップに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得の為に勉強の時間確保に勤務の調整や月2回施設内研修会を開催し、施設外研修にはできる限り参加出来る様、勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設のイベントなどの案内は全スタッフに回覧し出来るだけ参加し、他施設を学び自施設に活かせる様にしている。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接でご本人・ご家族とコミュニケーションの場を設け今後について意向を確認し安心して利用出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接でご本人・ご家族とコミュニケーションの場を設け、不安や要望等を確認しよりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接でご本人・ご家族・担当ケアマネとコミュニケーションの場を設け今後について意向を確認し、今何を一番に必要としているかを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の生活歴を把握し人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、もちつもたれつ温もりある関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日頃の様子を報告し、相談や意見交換をし、時には協力を求めて一緒に支えていける関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も馴染みの関係が途切れないよう協力を得て訪問や外出などの機会を設けている。	利用者の生活歴を把握し、家族の情報、日常の会話などで馴染みの関係を把握している。地域の祭りでは利用者と地域住民が楽しみながら交流を深め、馴染みの関係を作っている。知人の来訪や電話連絡を依頼され馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で孤立しないようスタッフが中心となり、交流出来る様支援し、助け合う心も生まれている。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションを図りながら希望・意向を聞き把握に努めている。	利用者に寄添い、日々の会話、行動、仕草などから思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を職員で共有し、利用者本位の介護に繋げている。毎日、必要な声掛けと確認を行い、疑義はユニットで話し合い、職員によって差のない統一した支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報やご家族より情報を得る等で全スタッフで把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や口頭、書面で申し送りし、出来ること、出来ないことの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き、ご本人・ご家族、スタッフの意見を聞いて現状にあった計画を作成している。状態に変化が見られなかった場合には随時見直しし作成している。	利用者・家族の意向を反映させ、カンファレンスを実施し、課題とケアのあり方について話し合い介護計画を作成し、家族の同意を得ている。状況に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画を作成し、家族の確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、他の申し送り、ユニット会議等で情報を交換し実践することで介護計画や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望に応じて、外出・買い物など事業所が変わって行くなど柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などは繋がりを大切にし、地域の一員であるという気持ちでいれるようスタッフと一緒に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの医療機関の継続はもちろんのこと、定期受診以外にも身体の不調時には受診し適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に添って、入所前の医療機関をかかりつけ医として継続受診している。職員が付き添い利用者の基本情報を提示して受診し、変化があった場合は家族に報告している。救急で病院搬送後の急性期病院受診には、職員と家族が同行して適切な医療受診に努めている。	

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置は無いがかりつけ医の看護師には常に相談にのってもらったりアドバイスをもらう等、利用者が適切な受診を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に必要な情報を提供し、治療方針については主治医とカンファレンスを実施し、小まめに面会し状況把握や看護師長に状況を聞くなどして、退院後の生活に対応出来る様になっている。ご家族・主治医・看護師を交えてのカンファレンスも欠かさず実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関とご家族も含めて話し合い、事業所でできること・できないことを明確にし、方針を共有しチーム支援に取り組んでいる。	入所時、利用者、家族に事業所の現状と重度化・終末期医療の対応について書面で説明を行い、理解を得て双方押印している。家族が希望する利用者の最善の介護を、主治医と事業所がチームを組んで支援にあたり、状況の詳細をその都度家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で、心肺蘇生法・急変時の講習会を設け、施設では急変時の対応マニュアルを作成し、しっかり対応できるよう勉強会を開いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練はもちろんのこと、風水害時に対応出来る様訓練をしている。避難訓練時は地域の協力も得ている。	昼夜を想定した通報・消火・避難誘導訓練を年2回実施し、消防署と消防団、地域住民の参加協力を得ている。このほか、土砂災害避難訓練と救命講習も受講して災害防止に取り組んでいる。備蓄は食料や介護用品、水等を3日～4日分確保して災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については、施設内研修会で勉強の機会を設けている。利用者一人一人の人格を尊重しプライバシーを守られるような声かけをしている。	呼称は苗字にさんを付けて一人ひとりの人格を尊重している。トイレ誘導等の際は、耳元で小声で伝え、失禁時は利用者の羞恥心に配慮し、他に気付かれないようさり気なく、戸を閉めて支援している。毎年2回接遇とプライバシー保護の研修を実施して、人格を尊重した介護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら希望や自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースに合わせ、その日の気分や体調に応じ、希望をもとに支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服をコーディネートしたり、アドバイスしたりと気分が楽しくなるよう支援をしている。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器洗いや食器拭きを職員と会話をしながら楽しみながら一緒に行っている。	メニューを作成しているが、これにこだわらず、近くで採れた季節の山菜や地域から差し入れのあった、野菜、水産物を食材にして調理し利用者に喜ばれている。また、行事食のお節料理や誕生日のケーキ作りなどに利用者も参加している。家族と外食などに出かけ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・水分量はチェックしバランスが取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人の状況に応じ介助や見守りで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し不快にならないような声かけや見守りをしている。	排泄記録に注意して、水分摂取量をも参考に、表情、態度などからさり気なくトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。退院時など難しい時期には、2人介助で対処して、1日も早く自立排泄に戻るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食物繊維を取り入れた食事の提供をし、必要に応じて主治医に相談し便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分良く入浴出来るような声かけをし、拒否の際には時間を置いて再び声をかけや、日を改める等工夫をしている。	週2回の入浴を目標に、利用者の希望により入浴を支援している。職員との相性も考慮して、利用者の気分の良い時に声掛けし、スムーズな入浴に繋げている。入浴を拒否する場合には、タイミングを探りながら機会を逃さず声をかけ、個々に浴った楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は清潔に保ち、ソファや居室など楽にくつろげる場所で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に合わせて見守りや介助で服用。薬の内容については処方箋に目を通す事を徹底し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が出来そうなレク・手伝いに参加して頂いたりし、気分転換出来る様になっている。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族が面会の時に外出に出かけたりする等は自由に出てくる。天気の良い日などは花見・紅葉見物にドライブに又、近く公園や家電量販店などへ散歩に出かけている。	天気の良い日等は公園への朝の散歩、花見や紅葉見物、ドライブに行ったり、菜園や山菜取りで外気に触れて気分転換を図っている。また、家族来訪時、家族の協力を得て外出に行ったりしながら、家族との触れ合いを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買い物へ出かけている。お金は自己管理している方もいるが、片付けて分からなくなる等があり、ご家族へ相談し協力を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば電話をかけたりの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファやイスなどを設置しており、季節毎に装飾品を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している。	玄関に入るとハーロウィン南瓜などの作品を展示したギャラリーがあり、二つのユニットをつなぐ長い廊下を利用したり、リハビリ器具を活用し、健康の維持、増進を図っている。リビングの天井は高く広く、自然光が入り明るく、キッチンはおール電化設備で安全に配慮し、対面カウンターが利用者と職員との調理作業場所となっている。冬季は特に湿度管理に気をつけ、加湿器や物干しで調整し、季節の作品も飾った居心地よい場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも談話できるスペースを設置しており、好きな時にいつでも利用出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参して頂き、ゆっくりとくつろげるように工夫している。	馴染みの使い慣れたベットや家具、仏壇が置かれ、壁には利用者の作品が飾られている。畳の居室もあって、明るく、広さもあり、寛げる空間となっている。清掃も職員と利用者が共同で携わり、清潔でゆっくり過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、動線には手すりを設置している。浴室やトイレ等はわかりやすい表札を付ける等、自立した生活を送れるよう工夫している。		